

KIPN 第30回例会 シンポジウム

2013年9月28日

# 今、あらためて MRSA を考える

市立堺病院 総合内科

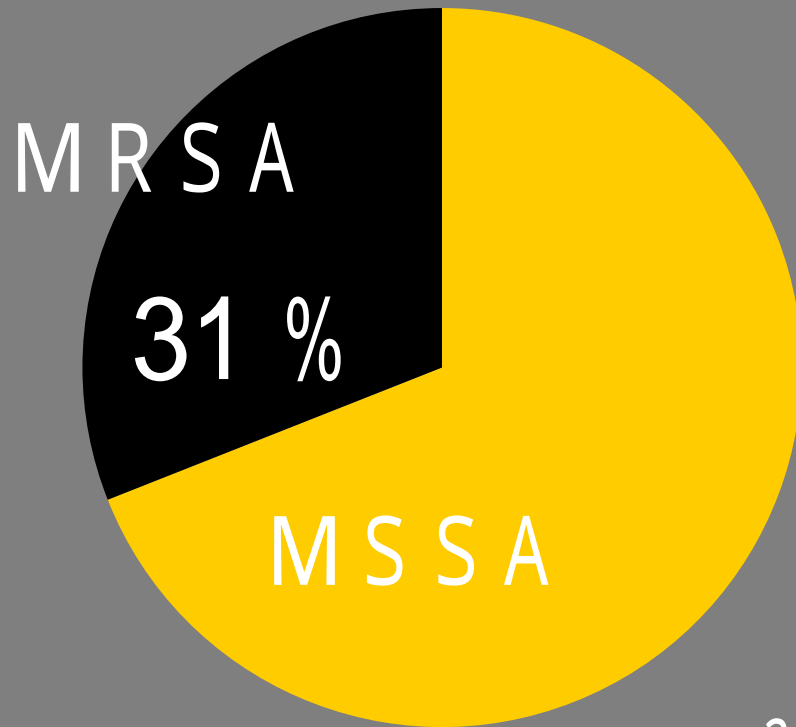
藤本卓司

# M R S Aの予防策をめぐる誤解

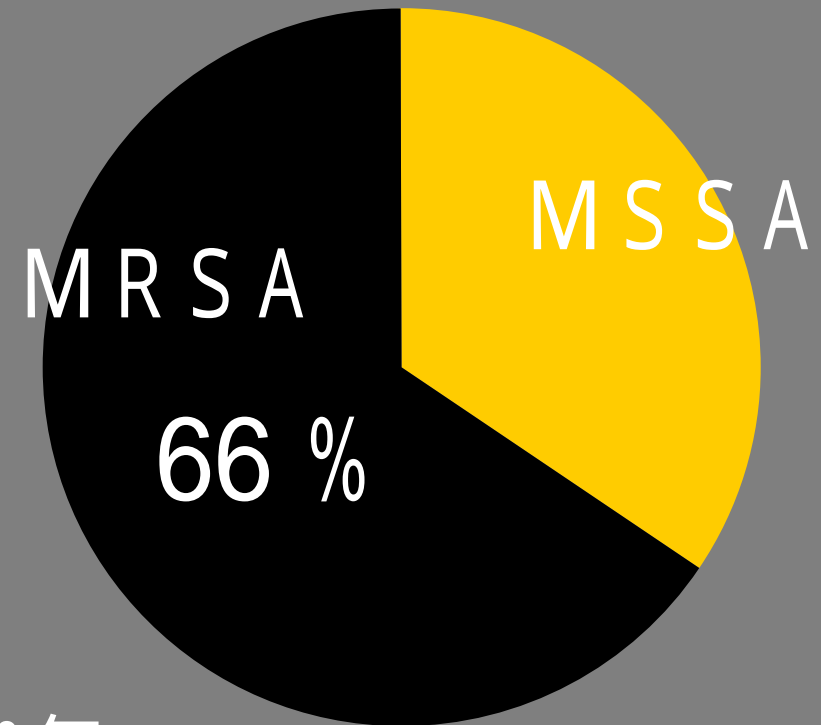
- ✓ M R S Aは保菌(コロニゼーション)の場合が多く、患者自身のリスクは高くない？
- ✓ 保菌の場合は、感染症の場合とは異なり、他者への伝播リスクは低い？
- ✓ M R S Aの隔離はたいてい総室で十分であり、むやみに個室隔離をしてはならない？

# *Staphylococcus aureus*

< 外来 >



< 入院 >

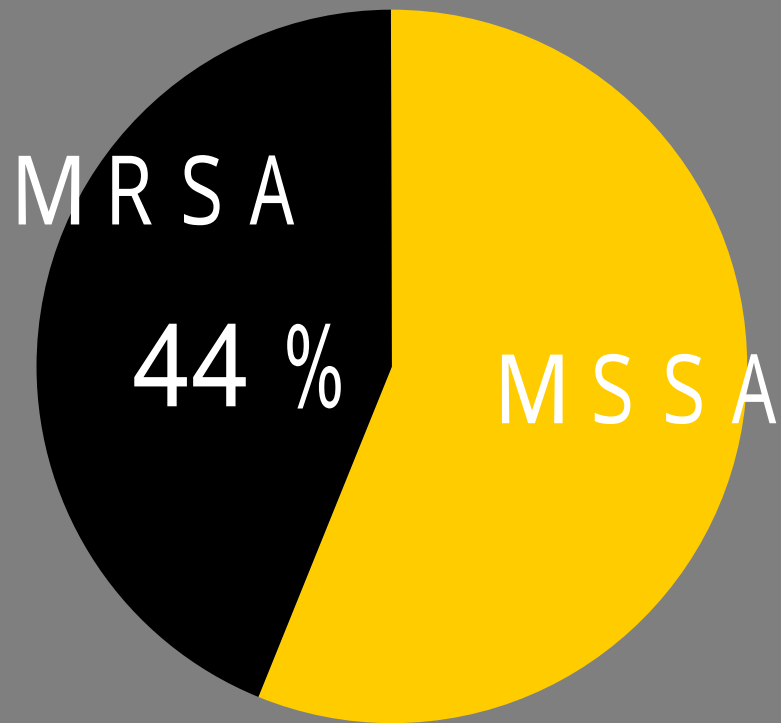


~ 2008年 ~

吉田勇ほか . Jpn J Antibiotics 2012;65:49

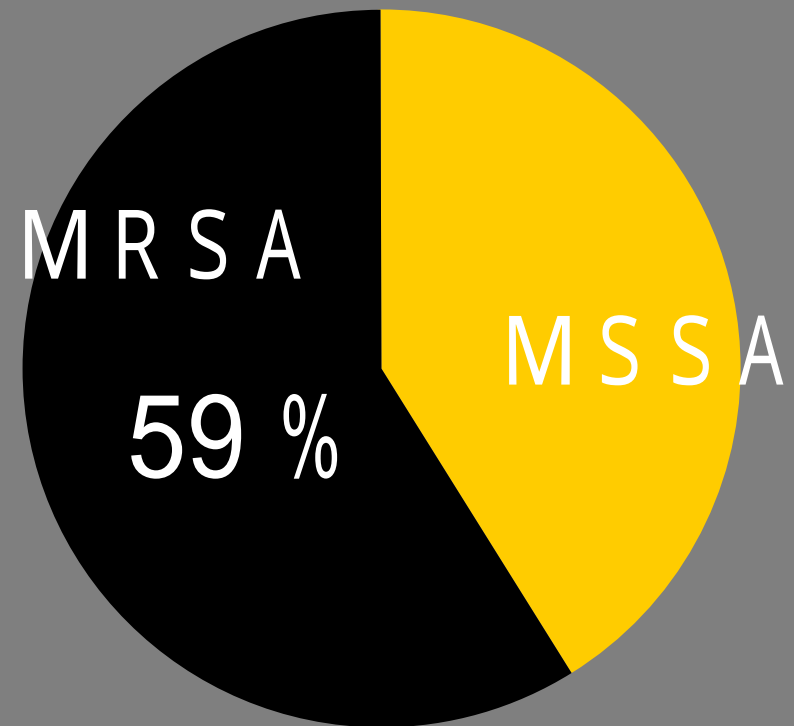
# *Staphylococcus aureus*

< 市中 >



N = 374

< 院内 >



N = 97

2012年 市立堺病院

# M R S A 率 年次データ (JANIS)

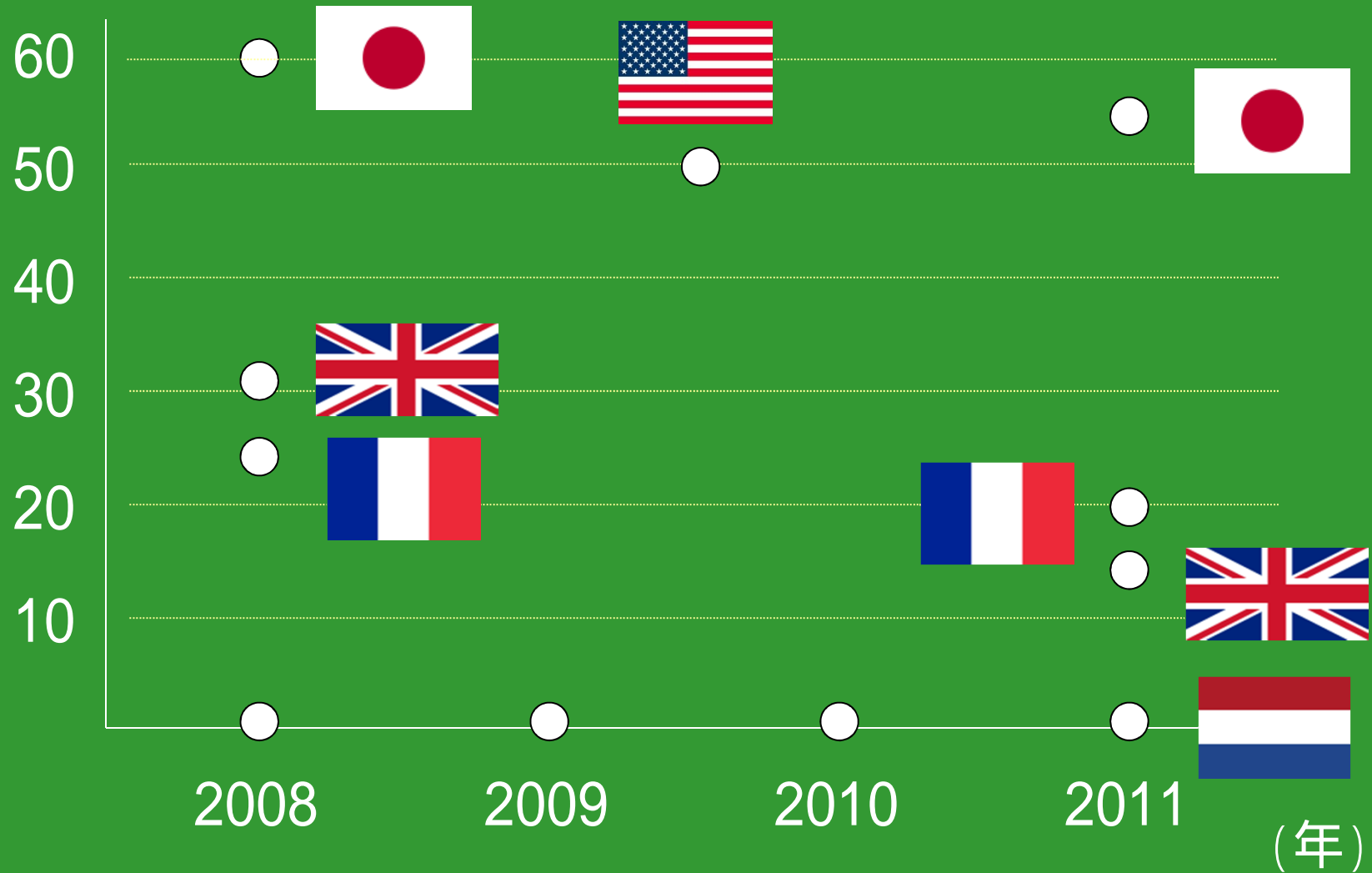
(入院患者由来株)

	2008	2009	2010	2011	2012
<i>S.aureus</i>	162,332	180,184	175,145	210,382	221,239
MRSA	97,384	105,722	100,845	114,933	117,209
MRSA率	60	59	58	55	53

(%)

# MRSA 分離率

(%)



# 鼻腔保菌からのMRSA感染症発症

米国軍附属3次医療センターでの研究

入院時758名中, MRSA鼻腔保菌26名 (3.4%)

## “入院後”のMRSA感染症発症

保菌(+): 26名

保菌(-): 732名

---

19%

1.9%

25%

入院後, 保菌(+)

# 鼻腔保菌からのM R S A感染症 発症

米国退役軍人病院でのアクティブサーベイランス  
入院時, 転院時, 退院時

M R S A感染症発症 (4年間)

保菌 ( + )

保菌 ( - )

---

18.0 %

4.3 %

Stenehjem E, et al. Am J Infect Control 2012;Dec



# 鼻腔保菌からのMRSA感染症発症

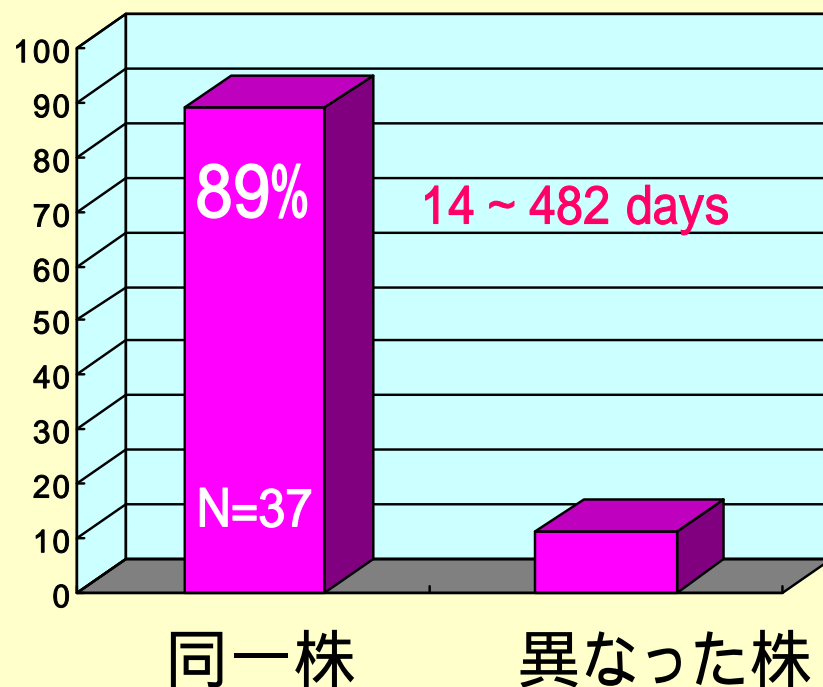
著者, 年	MRSAスクリーニング (名)	MRSA保菌 (名)	MRSA感染症 (名)	保菌→感染 (%)
Muder et al, 1991	197	32	11	34.4
Pujol et al, 1996	488	63	24	38.1
Lee et al, 1997	354	38	14	36.8
Corbella et al, 1997	752	17	5	29.4
Chang et al, 1998	84	24	8	33.3
Bert et al, 2000	87	8	7	87.5
Squier et al, 2002	204	63	11	17.5
Fishbain et al, 2003	535	20	3	15.0
Davis et al, 2004	758	26	5	19.2
Muder et al, 2006	102	88	10	11.4
	3561	379	98	25.9

Safdar N, et al. Am J Med 2008;121:310

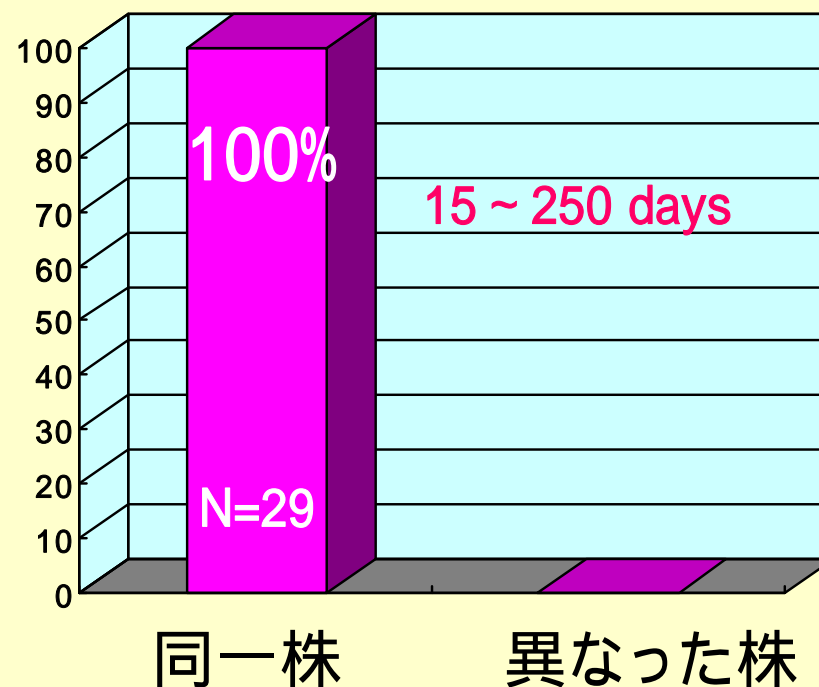
# 保菌した株がMRSA感染症を起こす

## ～ 菌株の遺伝子解析 ～

(1) 感染 → 感染



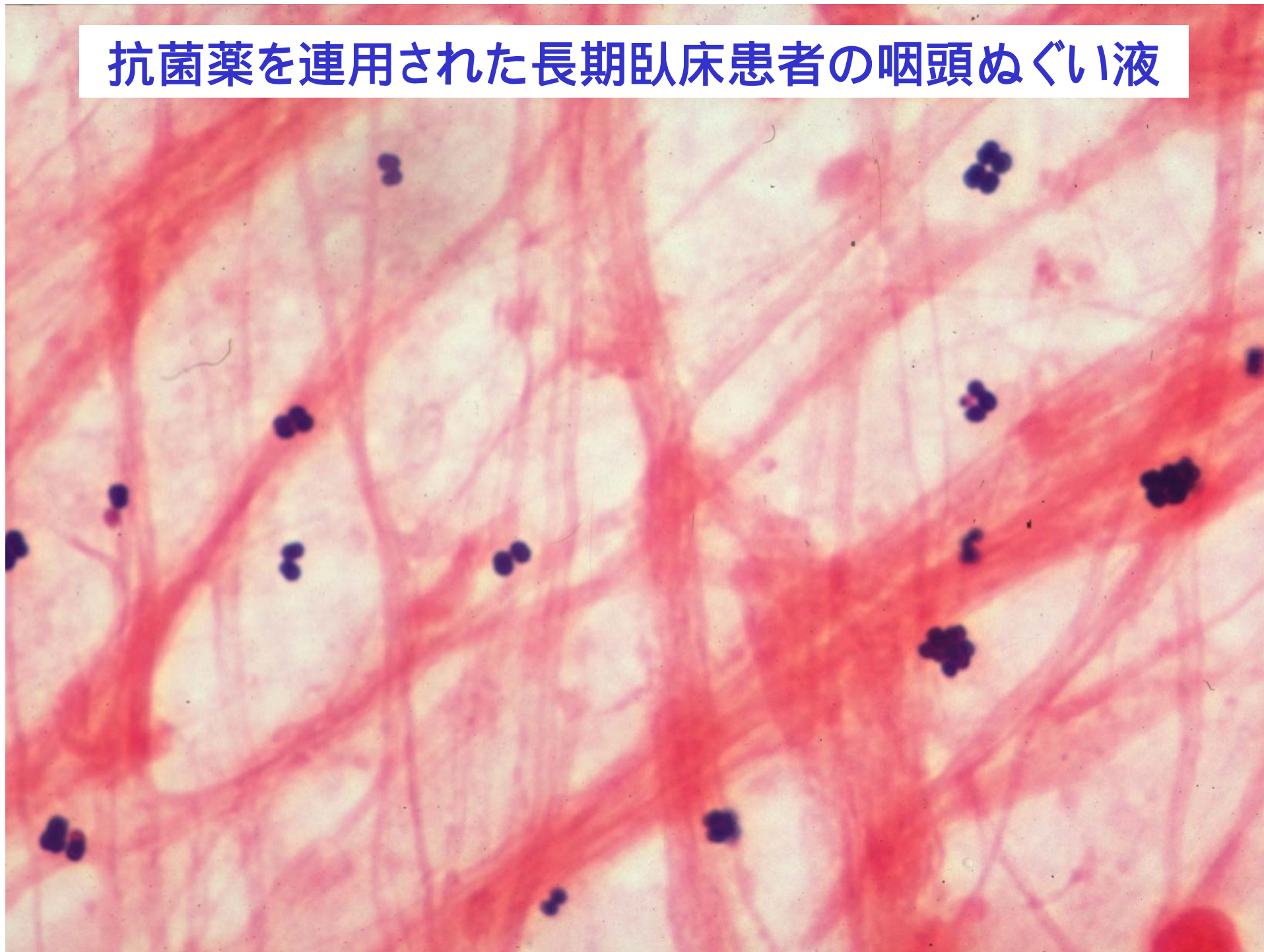
(2) 保菌 → 感染



# M R S A 保菌の持続期間

出典	国	保菌期間	検体採取部位	著者
CID 1994;19:1123	アメリカ	40ヶ月: 50%	鼻腔、腋窩、鼠径、 会陰	Sanford MD
CID 2001;32:1393	フランス	8.5ヶ月: 50%	鼻腔、皮膚	Scanvic A
ICHE 2005;26:629	オランダ	14ヶ月: 50%	鼻腔、咽頭、会陰、 創部や皮膚、尿、喀 痰×3回	Vriens MR
ICHE 2006;27:1206	スイス	7.4ヶ月: 41%	鼻腔、鼠径、皮膚、 気管内分泌物、尿	Marscall J
CID 2009;48:910	アメリカ	1年: 49% 4年: 21%	鼻腔	Robicsek A
ICHE 2010;31:541	アメリカ	6ヶ月: 58%	鼻腔、創部、腋窩、 会陰	Vikram HR

抗菌薬を連用された長期臥床患者の咽頭ぬぐい液



# M R S A による病室環境の汚染

- ✓ アイルランド (M R S A 率 36%) での研究
- ✓ 早朝の清拭の前に検体を採取

ベッド柵	44 ~ 100 %	テーブル	60 ~ 86 %
椅子	44 ~ 71 %	出窓	32 ~ 100 %

患者由来 / 環境由来: 同一株 (PFGE) 70 %

# 市立堺病院での転入患者に対する MRSA スクリーニング

## ✓ 採取部位

鼻腔 咽頭液 or 喀痰 鼠蹊部皮膚

### ④有所見の部位

## ✓ 検査提出時期

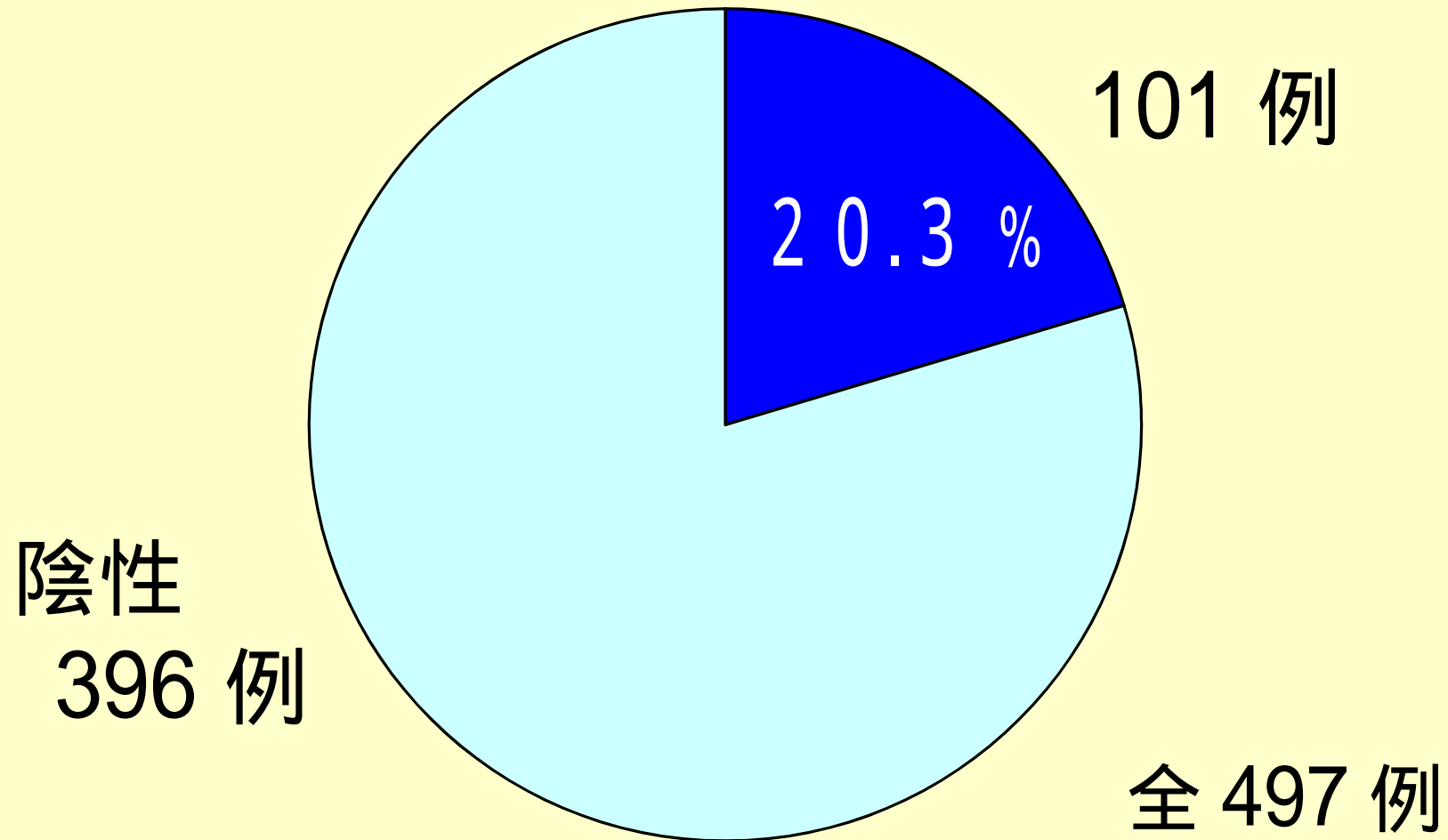
転院当日あるいは翌日

## ✓ 検査結果判明までの対応

MRSA陽性(仮)として接触予防策を実施

# 転入患者のMRSA陽性率

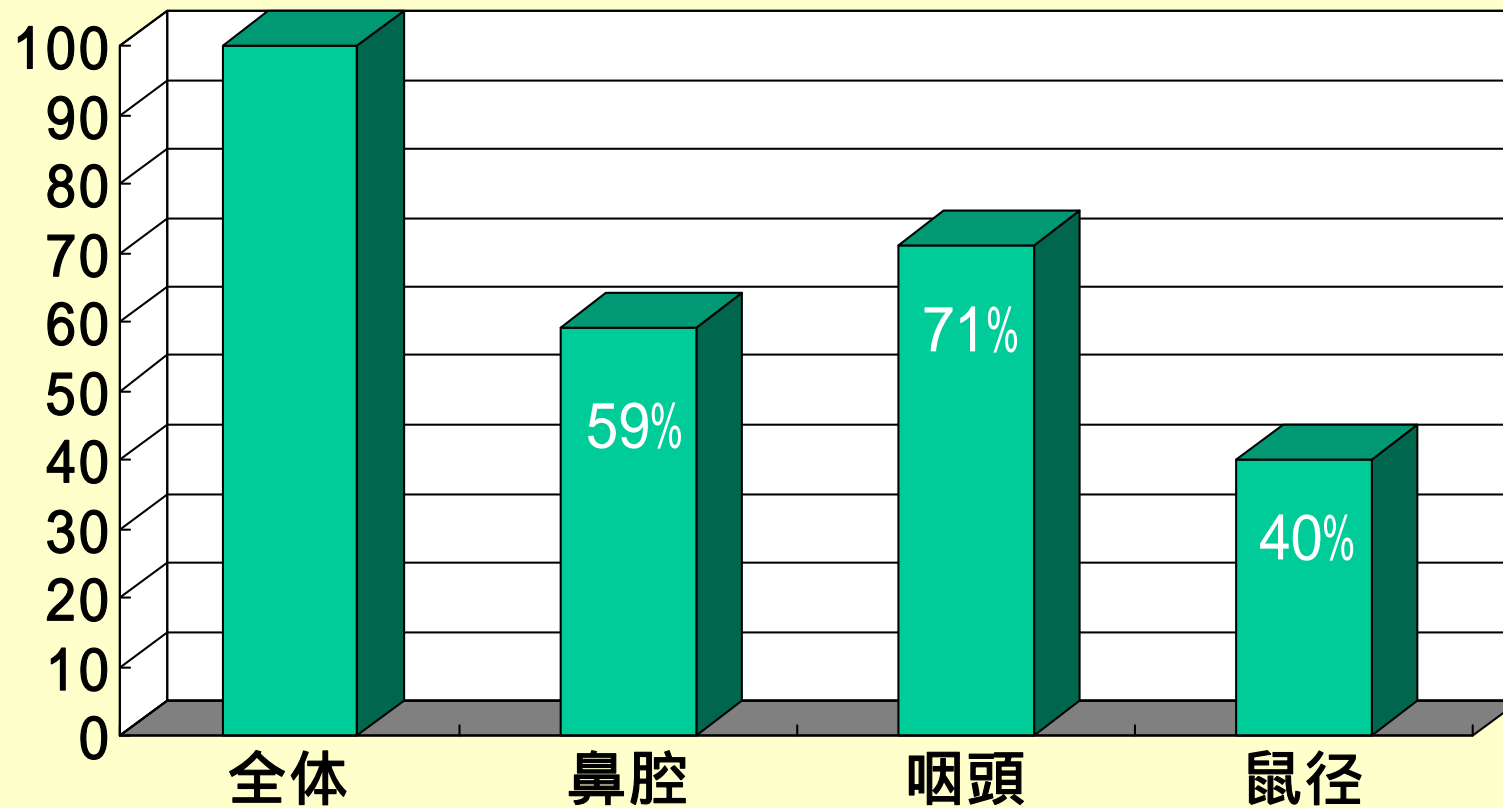
2006年2月～2009年1月



# M R S A (+) 転入患者101名の検討

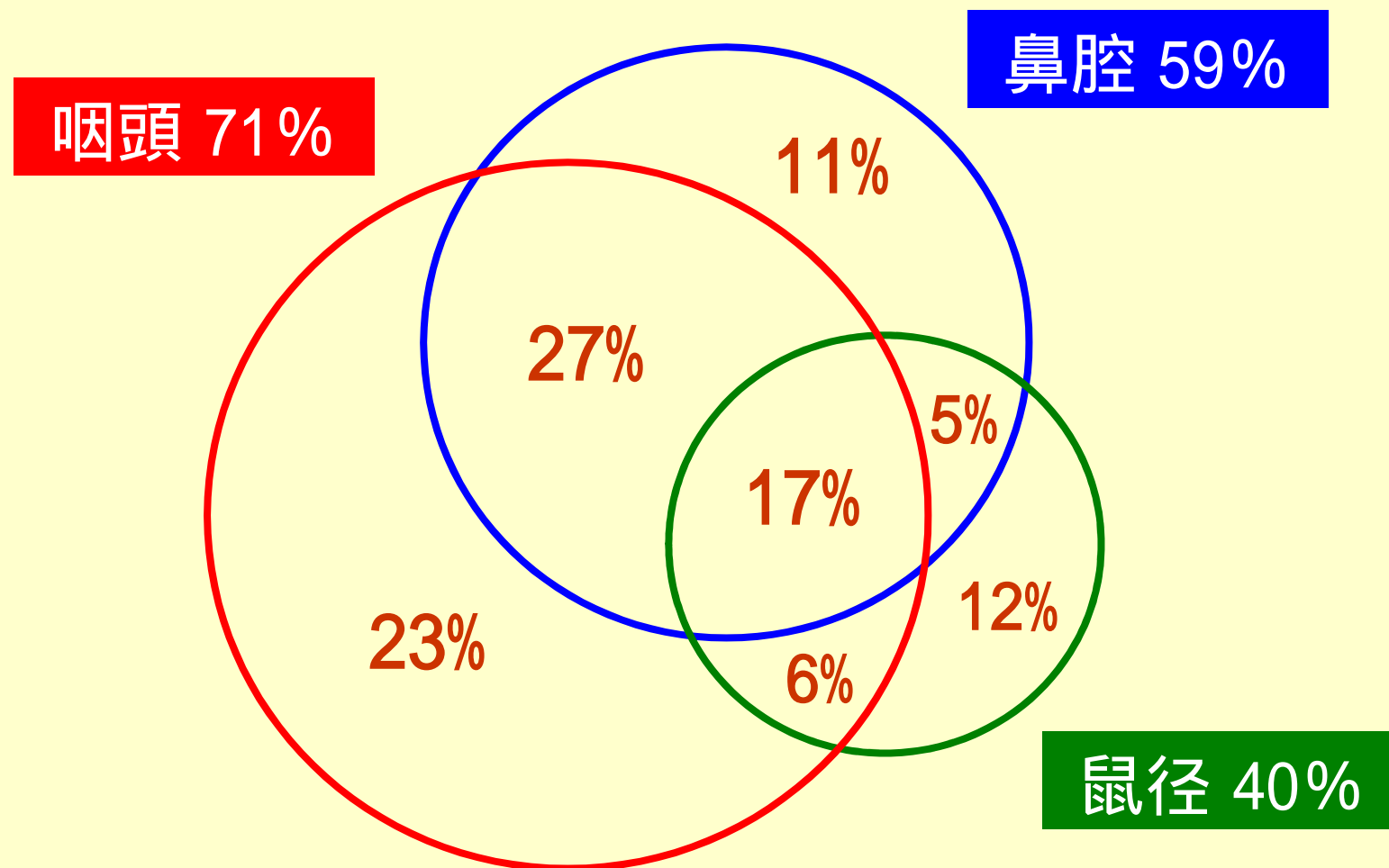
2006年2月～2009年1月

(%)





# M R S A (+) 転入患者101名の検討



# 転入患者 M R S A スクリーニング 費用

A . M R S A 専用スワブ + 培地	1 3 9 円
B . M R S A 選択培地	1 0 0 円
C . 感受性・同定セット	1 5 0 0 円



**総計： 176,436 (円/年)**

# M R S Aスクリーニングの方法

アメリカ 	鼻腔
オランダ 	鼻腔， 咽頭ぬぐい液， 会陰部， 尿， 喀痰， 皮膚病変， 創部 1時間おきに3回，計12～21検体
市立堺病院 	鼻腔， 咽頭ぬぐい液 or 喀痰， 鼠蹊部皮膚，④有所見の部位

# My Dream

(%)

